復旧から復興、新しい未来の創造へ

公益財団法人七十七ビジネス振興財団
代表理事　鎌田　宏

新年あけましておめでとうございます。

昨年の東日本大震災からおよそ10か月が経過し、宮城県内も以前の落ち着きが戻りつつあります。皆様にはこれまでとは異なった年の初めをお迎えの方もおいででしょうが、新しい年が明るく幸多い年でありますよう心よりご祈念申しあげます。

昨年私ども財団の取り組みとして、第14回「七十七ビジネス大賞」を４社、「七十七ニュービジネス助成金」を３社に贈呈いたしました。例年と同じ公募による支援事業に対して震災後にもかかわらず一昨年を上回る応募があり、被災した県内企業および起業家の方々の強さや復興への意欲が感じられ、多くの企業が今後も県内の震災復興、産業振興、経済発展をけん引していただけるものと心強く思っております。また、このような環境で弊財団が支援事業などの活動を継続できましたのも、ひとえに産・学・官各方面の厚いご支援・ご協力の賜物とあらためて感謝申し上げる次第です。

さて、我が国を取り巻く環境は、残念ながら引き続き明るさの見えない状況がつづいており、「東日本大震災」「原発・エネルギー問題」「円高」「ＴＰＰ」とキーワードを挙げますとその課題解決の難しさを痛感いたします。どの課題に対しましても、立場の違いからその進むべき方向に議論が多いわけですが、我が国の未来を展望できる方向を見出したいとの目的は同じなわけですので、各課題に対する各々の理解を深めて一刻も早い対応策を実施することを期待しております。そのため、弊財団も講演会の開催や情報誌の発行により、少しでもその理解の一助となるよう内容を充実させて参りたいと考えております。

県内においては、特に震災からの復旧・復興が最大の課題ですが、県の震災復興基本方針・復興計画を初めとして多くの自治体の震災復興計画が昨年中に策定され、復旧の段階を終えて本格的な復興が始まっております。自治体ごとに進捗状況にバラツキはあるものの着実に歩みをすすめているわけですが、ほとんどの計画が10年間と長期におよび、その進め方によっては自治体の経済基盤崩壊にもつながりかねず、是非とも前倒しの計画実施を期待するところです。また、計画には今までの枠を超えた「スマートシティ」などの新しい街づくりの内容も盛り込まれており、復興はまさに未来を創造することであるといえます。この機会をチャンスとしてとらえ、旧来の閉塞感から脱皮した新しい未来を創造するという強い意志を持ち復興を進めていくことが求められております。

弊財団は、宮城県内の産業振興とものづくり支援に加え、震災復興につきましても地域との連携を深め尽力して参ります。今年も皆様の一層のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げ、新年のご挨拶といたします。

第14回 贈呈式

平成23年11月18日㈮開催

七十七ビジネス大賞・七十七ニュービジネス助成金

代表理事あいさつ

本日は、ご多用にもかかわらず、みなさまのご臨席を頂きまして、ここに第14回「七十七ビジネス大賞および七十七ニュービジネス助成金」贈呈式を開催できますことは誠に有り難く、皆さまのご支援、ご協力に対しまして厚く御礼を申し上げます。

とくにお忙しいなか、ご臨席を賜りましたご来賓の、東北財務局長　岡部憲昭様、東北経済産業局地域経済部長　寺家克昌様、宮城県副知事　若生正博様、仙台市副市長　伊藤敬幹様には深く御礼申し上げる次第でございます。

また、この度「ビジネス大賞」および「ニュービジネス助成金」受賞の栄誉に浴されました企業の皆さまに対し、心からお慶びを申し上げる次第でございます。

当財団は七十七銀行の創業120周年を機に平成10年４月に設立され、今年で14年目になるわけでございます。この間、産・学・官各方面からの厚いご支援・ご協力のもと、表彰事業のほか、講演会やセミナーの開催、情報誌の発行など、幅広い事業活動を続けております。また、昨年４月より、公益法人として、新たな一歩を踏み出しております。

さて、最近の経済情勢でございますが、国内景気の現状は、３月11日に発生した東日本大震災の影響により、依然として厳しい状況にありますが、復興需要やサプライチェーンの立て直しなどを背景に、緩やかに持ち直しております。しかしながら、海外においては、ギリシャに端を発した欧州財政不安やアメリカの景気回復の遅れ、タイ洪水に伴うサプライチェーンの寸断など、景気の下振れリスクを多く抱えており、また加えて急激な円高の進行等により、輸出企業の収益悪化や国内産業の空洞化も懸念されていることから、予断を許さない状況にあります。

県内景気につきましては、東日本大震災の被害が甚大であった沿岸部においては、農業・水産業の復旧の目処が立っていないことから、依然経済活動は低迷しており、今後、具体的な復興計画の進捗が見られるまで厳しい状況が続くものと思われます。しかし、一方で復旧や復興に向けた公共投資が増加するなど、一部に改善の動きが見られるほか、セントラル自動車を始めとする自動車産業も生産を再開し、東京エレクトロンの工場も竣工・稼働開始するなど、その波及効果が今後期待されます。

当財団といたしても、県内産業の振興と地域経済の活性化、震災からの復旧・復興に向け、少しでもお役に立てるよう、今後ともこれまでの実績を踏まえ表彰事業等を中心にさまざまな形で、ニュービジネスや起業家を積極的に支援して参りたいと考えております。

本日贈呈いたします「ビジネス大賞」は、永年にわたり県内の産業・経済の発展に寄与し、あるいは活性化に貢献している企業等に対し表彰状と奨励金を贈呈するものであります。また、「ニュービジネス助成金」は、新規性・独創性のある技術・ノウハウ等により積極的な事業展開を行っている企業や、新規事業を志している起業家に表彰状と助成金を贈呈するものであります。

なお、今回より、「ビジネス大賞」および「ニュービジネス助成金」ともに、東日本大震災で被災した県内産業の復旧・復興活動における貢献等を評価の対象に加えております。

「七十七ビジネス大賞」（五十音順）

株式会社東北イノアック	代表取締役社長	鈴木　伸明 氏
株式会社西木食品	代表取締役	菊池　　洋 氏
株式会社ヤマウチ	代表取締役	山内　正文 氏
株式会社利久	代表取締役	亀井　利二 氏

「七十七ニュービジネス助成金」（五十音順）

株式会社スクリブル・デザイン	代表取締役	佐々木　誠 氏
トライポッドワークス株式会社	代表取締役社長	佐々木賢一 氏
株式会社ビック・ママ	代表取締役	守井　嘉朗 氏

審査結果につきましては、後ほど審査委員長である大滝先生からご報告がございますが、今年度は東日本大震災の影響により応募件数は減少するのではとの懸念もございましたが、結果的には昨年同様に多種・多様な分野からの応募がありました。内容的にも優れたビジネスモデルを構築されたものが多かったとお聞きしております。

そのような応募の中から選ばれ、今回受賞されます企業の皆様方は、地域や業界をリードしていく企業であり、また将来性のある新技術・新商品を意欲的に研究・開発されている企業であります。いずれも他の地元企業にとりまして模範となり、共に成長していくことを期待したいと思います。是非、今回の受賞を契機に今後ますますご発展されることを心よりお祈り申し上げるとともに、地元経済・社会に一層貢献されることを切に願う次第でございます。

最後になりますが、審査にあたられました大滝審査委員長をはじめ、審査委員の皆様方には、ご多忙の中ご尽力いただきましたことに対し、改めて厚く御礼申し上げ、私の挨拶といたします。

審査結果の講評

今回の審査をふりかえって

公益財団法人七十七ビジネス振興財団
審査委員長　大　滝　精　一
（東北大学大学院経済学研究科長）

審査委員長を務めました大滝でございます。２つの賞の趣旨につきましては、ただいま鎌田代表理事からお話がございましたので、さっそく今回の審査結果につきましてご報告させていただきます。

まず、応募状況につきましては、今年度は「ビジネス大賞」に９件、「ニュービジネス助成金」に38件、併せて47件の応募がありました。３月11日の東日本大震災の発生により、宮城県内は多大な被害を受けたことから、今年度の応募件数は減少するかと危惧しておりましたが、昨年に比べましても６件増加し、12年連続で40件を超えました。宮城県内の企業の強さを改めて感じるとともに、この表彰事業が、県内の企業や起業家の方々に広く認知され定着したものと考えられます。

応募の内容をみますと、「ビジネス大賞」は、食品分野、医療・福祉分野、建設分野、その他の分野から応募いただいており、食品分野が全体の４割を占めております。また地域的には、仙台圏からの応募が５割以上を占めているのが特徴です。

「ニュービジネス助成金」につきましては、さまざまな分野からの応募がございましたが、例年応募が多いＩＴ分野のほか、医療・福祉分野からの応募が増加しております。また地域的には、仙台圏からの応募が８割以上を占めているのが特徴です。

「ビジネス大賞」と「ニュービジネス助成金」は、その趣旨が異なりますので、それぞれ別々に選考しております。ビジネス大賞につきましては、評価の高い商品やサービス、優れた経営手法等により、業界のリーダーとして県内の産業・経済の発展に貢献してきた実績などを総合的に評価いたしました。

ニュービジネス助成金につきましては、製品や技術力の「新規性・独創性」と、将来の見通しを含めての「事業性」の両面から検討し、総合的に評価いたしました。

なお、両賞とも、東日本大震災で被災した県内産業の復旧・復興への貢献等も評価の対象に加えております。

審査経過 につきましては、８月末に締め切りました応募資料にもとづき、各審査委員がそれぞれ書類審査を実施しました。「ビジネス大賞」につきましては、審査委員会で総合的に検討した結果、今回

は４社を選定いたしました。また、「ニュービジネス助成金」につきましては、二次審査として上位企業６社によるプレゼンテーションと質疑応答を行い、最終的に３社を選定いたしました。

（「七十七ビジネス大賞」「七十七ニュービジネス助成金」贈呈先の企業概要・受賞理由等は6ページ以降をご覧ください）

今回の受賞企業各社についてあらためて振り返ってみますと、「ビジネス大賞」の４社のうち、３社は創業40年を超え、残る１社も20数年と、いずれも業歴のある企業で、創業以来、地域経済の発展や雇用の創出に積極的に取り組んでおります。また、永年にわたり築き上げた高い技術力・開発力によって付加価値の高い商品や質の高いサービスを顧客に提供し顧客満足度の向上に努めている点や、東日本大震災における復旧・復興活動へ積極的に取り組む姿勢などを高く評価いたしました。業種の違いこそございますが、皆様方は、これまでも地元経済の発展に大きく貢献されておられますが、今後なお一層事業をご発展され、震災後の地元経済を力強く牽引していただきたいと思います。

一方、「ニュービジネス助成金」を受賞された３社のうち２社は、設立以来築き上げてきた技術力と開発力を最大限に活かすことで独自のシステムを開発し、１社は消費者の需要を確実に捉えた先見性と独自の経営システムを構築し、独自のビジネスモデルを確立したところがポイントであります。これからも社会の多様なニーズ、技術革新に対応し、新規事業を成功させ、大きく成長していただきたいと思います。

また皆様には、これから新たに創業を計画している起業家や、既にニュービジネスに取り組んでおられる方々への理解者としても幅広くご活躍いただきたいと思います。協力・連携しながら相乗効果を発揮することで、地域経済全体の活性化が図られていくものと考えております。

最後になりますが、大変お忙しいなか、ご審査いただきました審査委員の皆さまに、この場を借りまして御礼を申し上げ、講評とさせていただきます。

第14回(平成23年度)
七十七ビジネス大賞

株式会社東北イノアック

代表取締役社長
鈴木　伸明 氏

●企業の概要

企 業 名：株式会社東北イノアック
代 表 者：代表取締役社長　鈴木　伸明
住　　所：遠田郡美里町北浦字二又下28番地
設 立 年：昭和39年
業　　種：プラスチック等加工製品製造業
資 本 金：50百万円
従業員数：271名

●事業の概要

昭和39年、井上護謨工業株式会社（愛知県）の製造子会社として設立し、自転車用チューブやプラスチック製品の製造を開始。現在は美里町・栗原市・岩手県北上市の３工場で、自動車やＩＴ機器等の部品・建築資材・自転車用タイヤ等のプラスチック・ゴム・ウレタン製品を製造、当社は幅広い産業分野のサプライチェーンを担う企業として事業展開。

小牛田工場風景

射出成形現場

永年にわたり築き上げた技術力・開発力を活かし150社以上のメーカーに部品を供給、幅広い産業分野のサプライチェーンを担うプラスチック等加工製品製造業

第二回みやぎ優れＭＯＮＯ受賞
イソシアヌレートボードサーマックスが認定

自動車内装部品

大型射出成形現場

マウンテンバイクタイヤ

ロール部品

外装用成形塗装品

●受賞の理由

当社は、「もの造りの国際競争力を持ち、かつ地域社会に貢献する企業を目指す」という理念のもと、永年にわたり築き上げた技術力・開発力を活かし、プラスチック・ゴム・ウレタン製品を製造している。

３工場では、国内で当社しか保有しない断熱材製造装置「硬質フリー発泡製造装置」や自動車部品製造に使用する「1,800ｔの高圧式大型成形機」等の生産設備を揃え、五千種類以上の部品・製品を製造しており、情報機器電子材料・建築土木・自動車部品・タイヤの４分野で、国内を中心とした150社以上のメーカーに部品を供給している。今後、自動車産業が集積する県内において、当社の担う役割は大きい。

製品の品質管理も徹底しており、平成14年には品質管理の国際基準であるＩＳＯ9001を認証取得し、非常に高い評価を得ている。

また、平成21年には、建築資材の断熱材「商品名『サーマックス』」が、環境に配慮したノンフロン発泡の断熱材としては、業界で初めて国土交通大臣による不燃認定を取得し、翌年には、第二回みやぎ優れＭＯＮＯに当商品が認定される等、当社の技術力・開発力の評価も高い。

東日本大震災後は、ライフラインの停止により工場は停止したが、全社一丸となって復旧にあたり、10日で工場を稼働し、サプライチェーン寸断を回避した。また、宮城県への寄付金の贈呈や、大崎市役所、美里町役場や沿岸部の避難所にマットレスや衣類、食料等の緊急物資を提供する等、復旧活動への取り組みは高く評価できる。

当社は、国内の様々な産業のサプライチェーンを担う企業としてものづくりを支え、また地域経済や地元の雇用に対しても積極的に取り組む姿勢は高く評価され、今後更なる飛躍が期待できる企業である。

第14回(平成23年度)
七十七ビジネス大賞

株式会社西木食品

代表取締役
菊池　　洋 氏

●企業の概要

企 業 名：株式会社西木食品
代 表 者：代表取締役　菊池　洋
住　　所：岩沼市下野郷字新関迎265番地１
設 立 年：昭和27年（創業：昭和14年）
業　　種：レトルト食品製造業
資 本 金：30百万円
従業員数：220名

●事業の概要

昭和14年創業で、常に安心・安全な食の提供を第一に考え事業展開するレトルト食品製造業。岩沼市、仙台市袋原に食品加工工場を所有し、カレー類・洋風ソース類・スープ類・お粥等のレトルト食品の相手先プライベートブランド（ＰＢ）商品を主力に製造するほか、近年、自社ブランド「にしき屋」のレトルト食品を開発。全国スーパー等で販売し、消費者の支持を得ている。

本社社屋

岩沼工場

レトルト食品の相手先プライベートブランド（PB）商品を製造する他、優れた商品開発力を活かし自社ブランド「にしき屋」を開発、食産業分野の発展に大きく貢献する食品製造業

にしき屋商品

化学調味料無添加の商品

にしき屋仙台カレー

作業風景

炊き出し風景

●受賞の理由

当社は、「体に良い商品創りをする」という理念のもと、様々な種類のレトルト食品を永年にわたり開発・製造。化学調味料等の添加物は極力使用せず、主原料の一つである「水」や調味料である「塩」「砂糖」の品質に十分こだわった当社の商品は、「レトルト臭がない」「自然な味がする」等、多数の顧客から高い評価を得ている。当社へＰＢ商品の製造を委託する企業は、無印良品の株式会社良品計画を含め現在約50社を数える。近年は当社の優れた商品開発力とストックレシピの多さを活かし、コーンポタージュや地元の名産品である牛タンを使用した牛タンカレー・牛タンシチュー等の数多くのメニューを取りそろえた自社ブランド商品「にしき屋」の製造・販売を開始。多くの東北の特産品・素材を使用した商品として消費者の評価が高い。

衛生管理についても積極的に推進し、平成15年には、厚生労働省より食品衛生優良施設として表彰される。平成21年には岩沼工場が、平成22年には袋原工場が　ＨＡＣＣＰの認証を受けている。

また東日本大震災で岩沼工場は仙台空港南の工業地帯に立地していたことから、津波により大きな被害を受けたにも拘らず、全社・取引先一丸となった復旧活動により45日で工場を稼働して営業活動を再開させ、岩沼市等の被災者に対して緊急物資としてレトルト食品の提供、避難所でカレーの炊き出しを行う等、復旧・復興活動への取り組みは高く評価できる。

当社は創業以来、食品製造業として食産業分野の発展に大きく貢献し、地元食材を活用した商品開発、地元出身者を中心にした雇用の確保等、地域経済の発展に大きく貢献。当社の優れた商品開発力により更なる新商品が期待でき、今後もこの分野での成長が大いに期待できる企業である。

第14回(平成23年度)
七十七ビジネス大賞

株式会社ヤマウチ

代表取締役
山内　正文 氏

●企業の概要

企 業 名：株式会社ヤマウチ
代 表 者：代表取締役　山内　正文
住　　所：本吉郡南三陸町志津川字五日町３
設 立 年：昭和63年（創業：昭和24年）
業　　種：鮮魚・水産加工品製造販売業
資 本 金：20百万円
従業員数：20名

●事業の概要

昭和24年創業で、鮮魚販売の他、南三陸町の鮭、たこ、ほや、かき等の豊富な水産物を活用した水産加工品を永年にわたり製造し、インターネット等による通信販売により全国各地に販売。

当社は、東日本大震災の津波により壊滅的な被害を受けたが、震災後５か月で店舗を再開する等復旧活動に全力で取り組み、あわせて南三陸町全体の復旧・復興活動にも地域のリーダー企業の1社として積極的に取り組む。

震災後開店した総合食品店舗

店内

永年にわたり南三陸町の豊富な水産物を活用した水産加工品を製造、東日本大震災で壊滅的な被害を受けた南三陸町の復旧・復興に向け、地域の旗振り役として尽力

帆っ伊達な燻し

冷凍工場

福興市

●受賞の理由

南三陸町の水産物を「三陸産・無添加・手作り」にこだわり、丁寧に、時間をかけて加工する当社の技術力・商品開発力は非常に優れており、水産加工品をこれまで約300種類製造。全国から多くの注文を受ける等、常に人気の高い商品を開発してきた。平成18年には宮城県等主催のみやぎものづくり大賞において、厳選した大粒のほたてを塩と地酒で味をつけ、炙り焼きにした「帆っ伊達な炙り」が食品加工部門グランプリを、三陸産の魚介類をこだわりの製法で味付けをした「海彩祭」「リアスの恋人たち」が食品加工部門優秀賞を受賞。平成20年には全国水産加工たべもの展において「帆っ伊達な炙り」の姉妹商品「帆っ伊達な燻し」が水産庁長官賞を受賞する他、全国の水産加工品評会においても多数の賞を受賞しており、当社の商品は非常に高い評価を受けている。

当社は、東日本大震災の津波により、店舗・工場等全施設が、壊滅的な被害を受けた。しかし、南三陸町の生活基盤を早急に復旧させるため、震災後５か月で、本業ではない食堂を併設した総合食品店舗を商工団地に開店。また、南三陸町の水産業復活のため水産物を保管するために必要な冷凍工場・製氷工場を建設し、さらに被災地ファンドを活用して水産品加工工場建設を計画する等、インフラ整備に積極的に取り組んでいる。

また、自社の復旧活動にとどまらず、併行して南三陸町全体の復興会議や商店街復興に向けた取り組みである「福興市」にも参画。山内社長は「福興市」の実行委員長を務め、震災後の４月末には第一回の福興市を開催する等、南三陸町の商店街復興のため中心となって復興活動を展開している。

南三陸町の水産物を活用した付加価値の高い水産加工品を永年にわたり製造・販売し、地域活性化に大きく貢献した他、震災後の南三陸町の復旧・復興に中心となって取り組む姿勢は高く評価され、地域の復興に今後も重要な役割を担う企業である。

第14回(平成23年度)
七十七ビジネス大賞

株式会社利久

代表取締役
亀井　利二 氏

●企業の概要

企 業 名：株式会社利久
代 表 者：代表取締役　亀井　利二
住　　所：岩沼市吹上２丁目２番36－１号
設 立 年：平成２年（創業：昭和63年）
業　　種：飲食店業（牛たん店）
資 本 金：30百万円
従業員数：830名

●事業の概要

仙台の食文化である「牛たん」のおいしさを全国的に広め、観光客誘致にも大きく貢献する、宮城県を代表する牛たん専門店。昭和63年仙台市泉区に「利久」１号店をオープン以来、県内に多店舗展開を行う他、埼玉、東京、博多へ店舗網を広げ、現在牛たん専門店を30店舗、土産品販売店を５店舗運営。また、牛たんの加工品を多数開発し、通信販売等で全国に販売を拡大。

岩沼工場

エソラ池袋店

「本来の牛たん専門店の良さ」と「豊富なメニューを取り揃える居酒屋の良さ」を融合させた「利久スタイル」を実現、牛たんのおいしさを全国的に広める宮城を代表する牛たん専門店

仙台駅店

西口本店カウンター

牛たんオードブル

牛たん定食

●受賞の理由

当社は、「確かな品質・丁寧な製法・温かな接客」を理念に、牛たん専門店を展開。「手作業で仕込んだ、厚くてやわらかい牛たん焼きの提供」にこだわるほか、岩沼工場はＨＡＣＣＰの認定を目指し衛生管理を徹底しており、安心・安全な食の提供を実践している。

商品開発力も非常に優れており、牛たんのレトルト商品、冷蔵・冷凍商品等の加工品の開発を同業他社に先駆けて行い、また、通常は牛たん焼きには使用しない部位についても、おいしさを引き出す調理・加工を行うことで、多種多様な料理を考案し各店舗で提供。この商品開発力により、「本来の牛たん専門店の良さ」と「豊富なメニューを取り揃える居酒屋の良さ」を融合させた、当社独自の店舗スタイルである「利久スタイル」を実現し、他店との差別化を図ることに成功。何度来店しても飽きさせない「利久スタイル」による店舗運営は、従来は限られた専門店で一部のファンに愛される商品だった牛たんを衆人に認知される評価の高い商品へと変え、観光客に加え幅広い地元客からも高い評価を得ており、多くの顧客を集客することに成功している。

また、震災後は数店舗ながらいち早く営業を再開し、温かい食事の提供を行うとともに、岩沼市をはじめ数か所の被災地で米の提供や炊き出しを行うなど地域の復旧活動にも貢献している。

全国に店舗展開を行い、「牛たん」を仙台の食文化として広めるとともに、地域の雇用確保に尽力している姿勢は、地域経済の発展に大きく貢献しており、高く評価できる。宮城県の食産業分野を牽引し、更なる発展が期待できる企業である。

第14回(平成23年度)
七十七ニュービジネス助成金

株式会社スクリブル・デザイン

代表取締役
佐々木　誠 氏

◆企業の概要

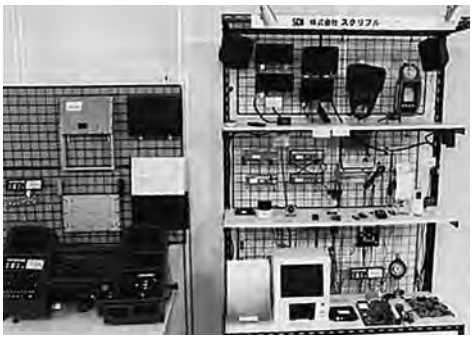
企 業 名：株式会社スクリブル・デザイン
代 表 者：代表取締役　佐々木　誠
住　　所：仙台市泉区市名坂字黒木川原19－2
設 立 年：平成14年
業　　種：電子通信機器設計・製造
資 本 金：32百万円
従業員数：22名

◆事業の概要

平成14年設立。液晶モニター、ＣＣＤカメラ、電子通信機器、ＡＶ機器等の開発および製造を行い、特に建設機械用の電子通信機器を主力業務とする。従来は受託開発中心であったが、開発設計から製造までの一貫体制を構築することで、顧客のニーズに的確に対応する企業に成長し、廉価で高品質の当社独自の鳥瞰モニタシステム(※)の開発に取り組む。

※鳥瞰モニタシステムとは、前後左右に設置したカメラから取り込んだ画像をつなぎあわせ、上から見たような画像に変換してモニターに映し出すシステム。

本社社屋



開発商品

廉価で高品質の鳥瞰モニタシステムの開発に取り組む電子通信機器設計・製造業、日本をはじめ建設需要の旺盛なBRICs、東南アジア等での普及を大きく期待

作業風景

高感度カメラ

◆受賞の理由

ショベルカー等の建設機械に使用されている鳥瞰モニタシステムは、主に乗用車等に搭載されているものと同水準であり、圧縮比の高い水平180度カメラを使用しているため画素数が不足し、ゆがむ等の実際の像とは違う映像を映し出す可能性があるといった弱点をもつ。この弱点を克服するためには、高解像度のカメラまたは湾曲の少ないカスタムレンズを使用する必要があるが、開発費およびランニングコストが高額になることから、建設機械市場では浸透していないのが現状である。そのため、建設機械を使用する際はオペレーターの経験と勘に頼ることになり、死角が多く、凹凸のある建設機械の事故が後を絶たない状況である。

当社は、この大きな弱点である映像のゆがみの克服を低コストで実現するため、建設機械に特化した当社独自の鳥瞰モニタシステムの開発を計画し、平成24年秋の製品化を目指している。

この鳥瞰モニタシステムは、当社既存製品である圧縮比の低い水平127度カメラを６～８個使用することで、弱点であった映像のゆがみをカバーでき、また当社の保有する設計技術力と当社製品を組み合わせて開発するシステムであるため、開発費およびランニングコストの低減が図られている。安全性が向上し低コストであることから普及が期待され、評価が高い。

国内において東日本大震災による復興需要から建設機械需要は増加する可能性があり、また、建設需要の旺盛な中国等のＢＲＩＣｓ、東南アジアを中心とした新興国・発展途上国において建設機械需要は増加傾向にあることから、今後、国内のみならず海外も視野に事業展開することが十分期待され、この分野での更なる飛躍が期待できる企業である。

第14回(平成23年度)
七十七ニュービジネス助成金

トライポッドワークス株式会社

代表取締役社長
佐々木　賢一 氏

◆企業の概要

企 業 名：トライポッドワークス株式会社
代 表 者：代表取締役社長　佐々木　賢一
住　　所：仙台市青葉区一番町１－１－41
　　カメイ仙台中央ビル７Ｆ
設 立 年：平成17年
業　　種：ＩＴシステム開発・販売
資 本 金：64百万円
従業員数：21名

◆事業の概要

当社は、セキュリティソリューション事業、先端技術開発事業、ＩＴサービス事業を柱とするシステム開発会社。電子メールセキュリティや不正侵入防止等の企業向けITソリューションで、4,000社以上に導入実績あり。新システムとして当社独自の画像圧縮転送技術に加え、東北大学ＩＩＳ研究センターのアドバイス等を受け、地域医療連携向けの高速画像処理共有システム「Med.i.Compressor」を開発。

社内風景

東北大学IIS研究センターのアドバイスを受け、地域医療連携向けの高速画像処理共有システム「Med.i.Compressor」を開発、診断画像の高速送信と安価で簡単なシステムの構築に成功

企業向けファイル転送システム「GIGAPOD2010」

社内会議風景

「Med.i.Compressor」

◆受賞の理由

医療にＩＴ技術が活用される中で、医療機器のＣＴやＭＲＩ、レントゲン等の画像のデータを送信することで、専門医による遠隔地での医療が可能になりつつある。しかし現在は救急でこの遠隔医療を行う場合、ＡＤＳＬ通信回線で1.5ギガバイトの画像サイズ（CD－ROM約２枚分）を送信すると、送信完了までに約３時間を要するほか、高額な医療情報システムの構築が必要であるため、遠隔医療は十分に普及していない状況である。

このような問題を解消するため、当社は、診断画像の高速送信と安価で簡単なシステムの構築を可能にした、地域医療連携向け高速画像処理共有システム「Med.i.Compressor」を開発した。

これまで画像圧縮はＣＰＵ（Central　Processing　Unit）を用いて行なわれており、上記の通り大幅に時間がかかる欠点があった。当社開発のシステムは、従来ゲームに代表されるような３Ｄグラフィックス処理に使用されていたＧＰＵ（Graphics　Processing　Unit）を用いたもので、その機能を医療画像の圧縮に転用したもの。当システムは、①画像機器に接続するだけの簡単設置であること②従来約３時間かかっていた転送時間を大幅に短縮し、約15分という短時間で画像を高速送信できること③当システムで使用されているＧＰＵはパソコンに使用される汎用商品のため、数十万円と安価な価格であること、を実現させ極めて画期的である。

当システムの活用により、医療環境が十分整備されていない離島や過疎地等の地域においても初期診断や迅速な医療を行なうことが可能となることから、今後地域医療機関からのニーズが拡大するものと予想される。遠隔医療の発展に大きく貢献するシステムを開発した当社の技術力・開発力は大いに評価され、今後この分野での成長が大きく期待できる企業である。

第14回(平成23年度)
七十七ニュービジネス助成金

株式会社ビック・ママ

代表取締役
守井　嘉朗 氏

◆企業の概要

企 業 名：株式会社ビック・ママ
代 表 者：代表取締役　守井　嘉朗
住　　所：仙台市青葉区北目町６－６
　　ファミール北目町１Ｆ
設 立 年：平成５年（創業:昭和39年）
業　　種：衣料品等修理サービス業
資 本 金：30百万円
従業員数：150名

◆事業の概要

当社は、衣料品・バッグ・靴・アクセサリーの修理とクリーニングを行なう「お直しコンシェルジュ　ビック・ママ」を東北や首都圏を中心に43店舗展開。小売業の需要が低迷する中、節約志向を強める消費者の需要を確実に取り込み、事業を拡大。安価な料金設定とサービスメニューのきめ細かさ、優れた修理技術は消費者から高い注目を浴びており、全国展開を目指す企業に成長。

本店

安価な料金設定とサービスメニューのきめ細かさ、優れた修理技術で高い注目を浴びる「お直しコンシェルジュ ビック・ママ」を運営、お直しサービスをこれまでにないビジネスモデルとして確立し事業展開

丸ビル店

作業風景

渋谷西武店

◆受賞の理由

平成11年に、創業以来続けてきた総合スーパー等の衣料品修理下請けの事業スタイルから脱皮を図り、消費者向け衣料品お直しの専門店に事業スタイルを転換。以後、衣料品のお直しに加え、バッグ・靴・アクセサリーの修理やクリーニング、衣類の預りサービス等、サービス項目を増やし、「お直しコンシェルジュ」としての当社ブランドを確立。

出店形態は、東北や首都圏の駅ビルや商業施設等の好立地の場所で、20㎡以内の店舗を従業員約３人で運営する小型店戦略を採用。仙台駅ビルの「エスパル」や東京の「丸ビル」等の好立地で営業を展開することで、集客力を確保することに加え知名度を向上させ、一方、店舗を小型化することで家賃等のコストを抑えることに成功。また、各店舗では、すそ上げ等の簡単な修理作業に絞り込み、複雑な修理作業は仙台市の本社内にある工場に集約。工場に配置された約40名の担当者の技術レベルに応じて修理作業を振り分けることで、技術水準を一定に保つ工夫がなされている。当社の徹底したコスト管理と直営店方式によるサービスレベルの徹底管理が当社の強みであり、当社の確立したビジネスモデルは高く評価できる。

衣料品等の修理をメインサービスとしていた当社は今回、衣料品の中古買取り事業を行うジャズダック上場企業と提携し、新サービスとして「衣類の買取りサービス」を導入。利便性の高い好立地に出店している当社の店舗は、再販可能な高品質の古着を多数集めることが期待され、新サービスの導入により、「新品のサイズを直し、壊れたら修理し、着ない期間は保管し、要らなくなったら買取る」という新しい衣料品の循環型サービスの提供の実現を目指す。

小売業の伸びが鈍化している現在、「もったいない」志向を的確に捉え、お直しサービスをビジネスモデルとして確立した当社は、今後一層の飛躍が期待される企業である。

第14回（平成23年度）「七十七ビジネス大賞」

1. 応募件数

（単位：件）

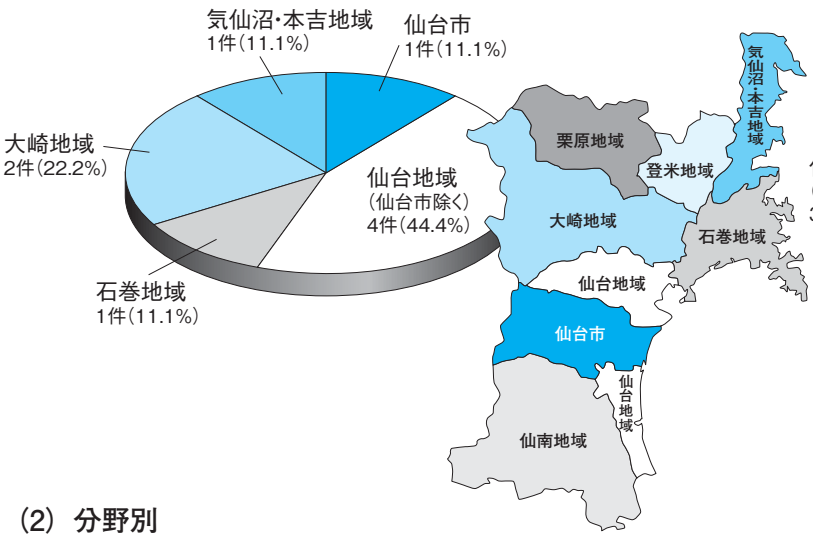
	第9回（H18）	第10回（H19）	第11回（H20）	第12回（H21）	第13回（H22）	第14回（H23）
七十七ビジネス大賞	20	18	18	20	11	9
受賞企業	3	3	3	3	3	4
七十七ニュービジネス助成金	43	31	29	34	30	38
受賞企業	3	3	3	3	3	3
合計	63	49	47	54	41	47

※第13回（H22年度）より大賞・助成金の重複申込みを不可としている。

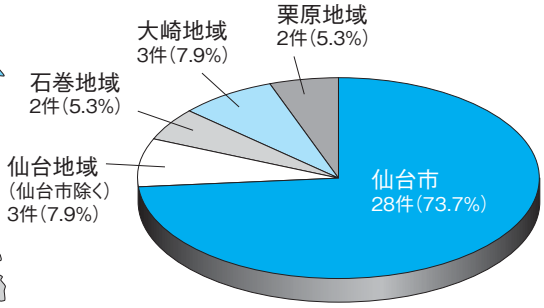
2. 応募企業の状況

(1) 本社（拠点）所在地別

①「大賞」

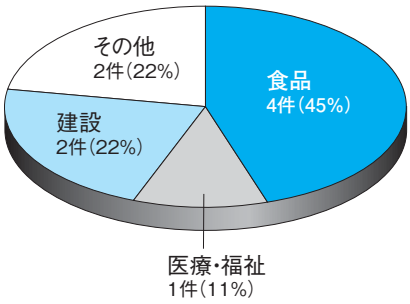


②「助成金」

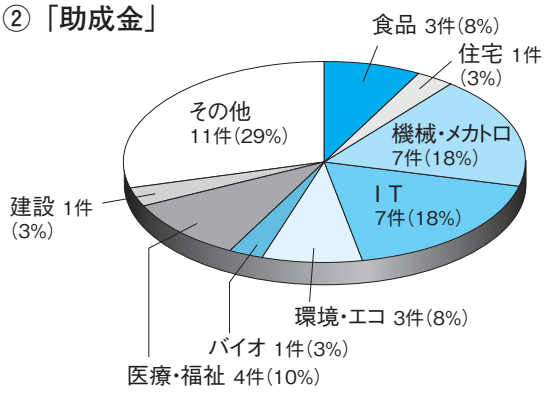


(2) 分野別

①「大賞」

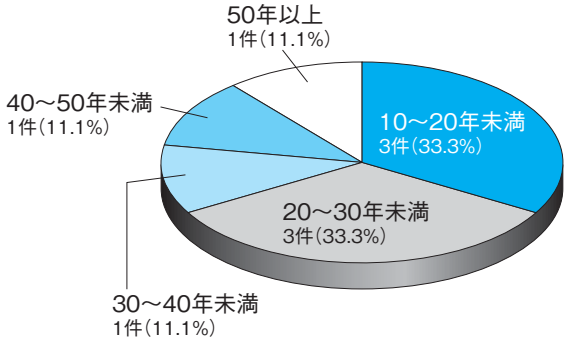


②「助成金」

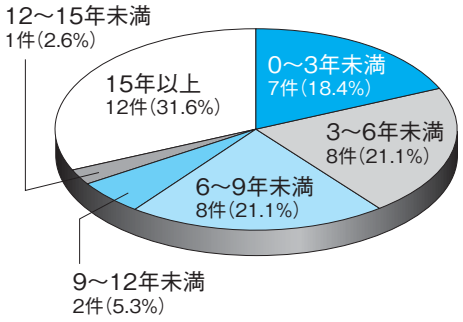


(3) 創業（設立）経過年数

①「大賞」



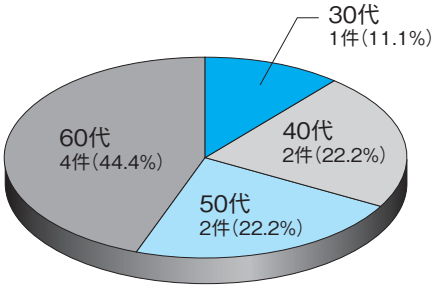
②「助成金」



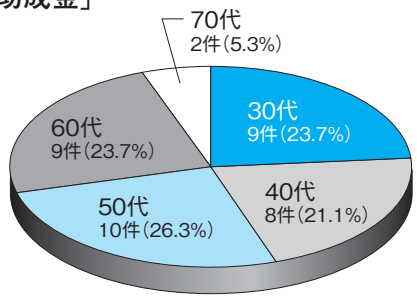
「七十七ニュービジネス助成金」の応募状況について

(4) 代取・代表者の年齢

①「大賞」

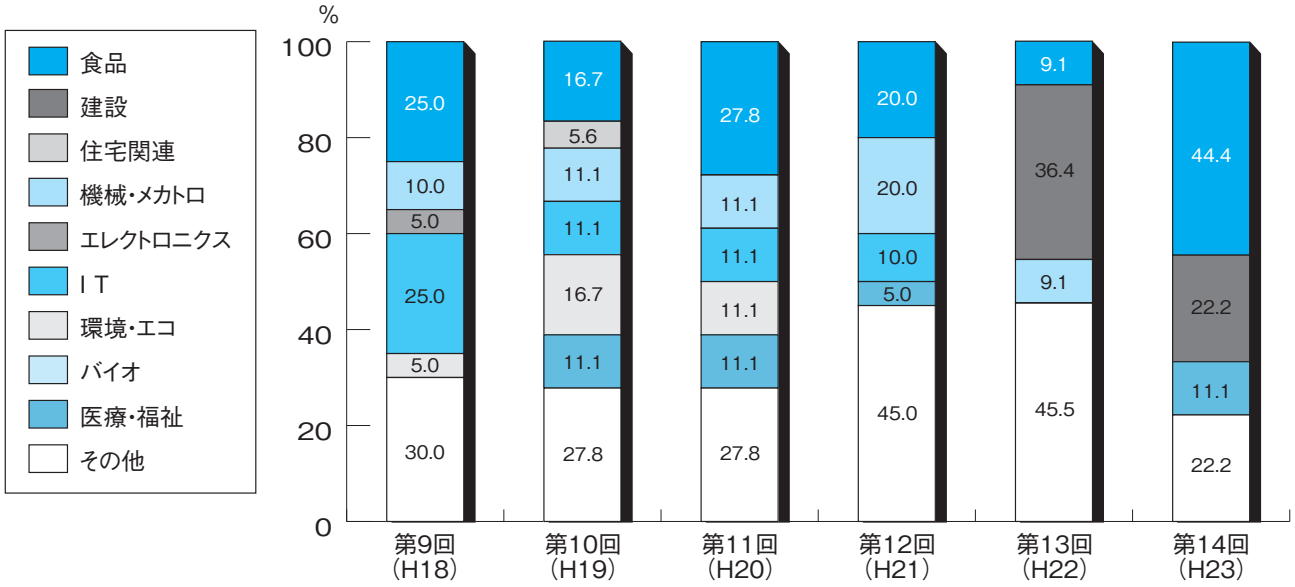


②「助成金」



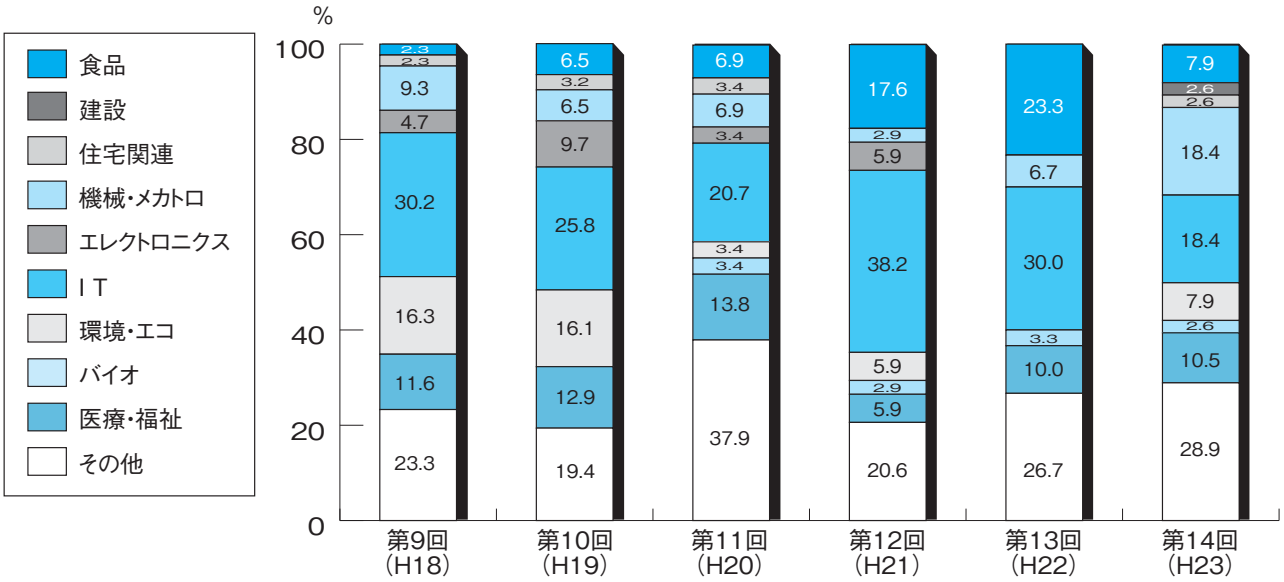
3. 応募企業の過去5年分野別推移

(1)「七十七ビジネス大賞」



※第13回（H22年度）より「その他」の内「建設」を別分野に細分化

(2)「七十七ニュービジネス助成金」



※第13回（H22年度）より「その他」の内「建設」を別分野に細分化

クローズ・アップ

社団法人みやぎ工業会の取り組みについて

社団法人みやぎ工業会事務局

1．社団法人みやぎ工業会の概要

昭和61年9月に仙台市において誕生いたしました。目的は、異業種交流と産学官交流を通して、富県宮城の発展に寄与することです。来年25周年を迎えます。正会員数は、バブル崩壊後一旦減少しましたが、近時増加に転じ360社に上ります。県内の地区で見ると、仙台市の会員が8割を占めております。こうした状況下、平成24年4月1日をもって一般社団法人に移行する予定です。今後工業会では「魅力ある工業会」を目指し、さらに多くのものづくり企業さま、特に県内の仙台地区以外の地区の皆さんにもご参加いただき、異業種交流、産学官交流等をさらに深めながら、大震災の復興支援のため、共に連携しながら頑張ってまいります。工業会活動にご興味にある方は、是非事務局までご連絡下さい。

なお、日常の工業会活動の中、(1) 委員会活動 (2) 受託事業　を中心にご紹介いたします。

(1) 6つの委員会

＜政策委員会＞
・官への提案検討　・行政トップとの意見交換会
・提案受託事業のフォローアップ・新たな事業提案の検討

＜総務委員会＞
・一般社団法人化検討・工業会改革活動に連動した規程類整備
・財政基盤強化検討、会員増強実践展開

＜技術交流委員会＞
・企業見学会（「県内外」）開催・大学ニーズマッチング関連

＜交流推進委員会＞
・産学官交流事業「産学官交流大会」「観桜会」「納涼会」
・新入会員交流事業「工業会サロン」・他地域、他機関との交流連携

＜情報委員会＞
・広報機関誌「MIA REPORT」の刊行・年度版会員名簿の刊行
・ホームページの内容検討

＜経営基盤委員会＞
・企業訪問研究会・提案受託事業のフォローアップ・官への提案検討

(2) 4つの受託事業

＜航空機産業研究会＞

みやぎ高度電子機械産業振興協議会の重点4市場の一つで、近隣の航空機関連企業・団体、さらには3重工とのビジネスマッチを目指し、航空機産業参入を目指す「企業連携グループ」構築を期待しての事業

＜ビジネスマッチ事業＞

会員製造大手との新たな取引を目指した活動を、更に広く県内企業間のビジネスマッチとするための体制整備と実践モデル創出の充実を図っていく事業

＜みやぎ優れＭＯＮＯ発信事業＞

県内の産学官16団体が宮城県の優れた工業製品を一丸となって発掘・育成・販売促進する事業

＜みやぎクラフトマン21事業＞

産業界への人材確保と産業人材育成を目的とした事業で、次世代の産業人を担う工業系高校生を地域企業の技術者・技能者の支援で指導する宮城県版の充実した仕組みに創り上げる事業

2．みやぎ優れMONO発信事業の概要

(1) 目的

宮城県など産学官16団体（※）で組織する「みやぎ優れMONO（モノ）発信事業実行委員会」（川田正興実行委員長－社団法人みやぎ工業会会長）は、県内で生産される機械器具等の工業製品の中から、品質や技術、安全安心、環境などに優れた製品を「みやぎ優れMONO」として認定し、県内外に発信するための認定制度を平成21年に創設いたしました。認定後3年間は技術やマーケティング支援、展示会への出展支援などの各種特典を付与し、宮城県からものづくりヒット商品を生み出すことを目的としています。

これまでに3回募集し16製品を認定しており、第4回目については平成24年1月に認定の予定となっております。今後年1回の募集を予定しております。

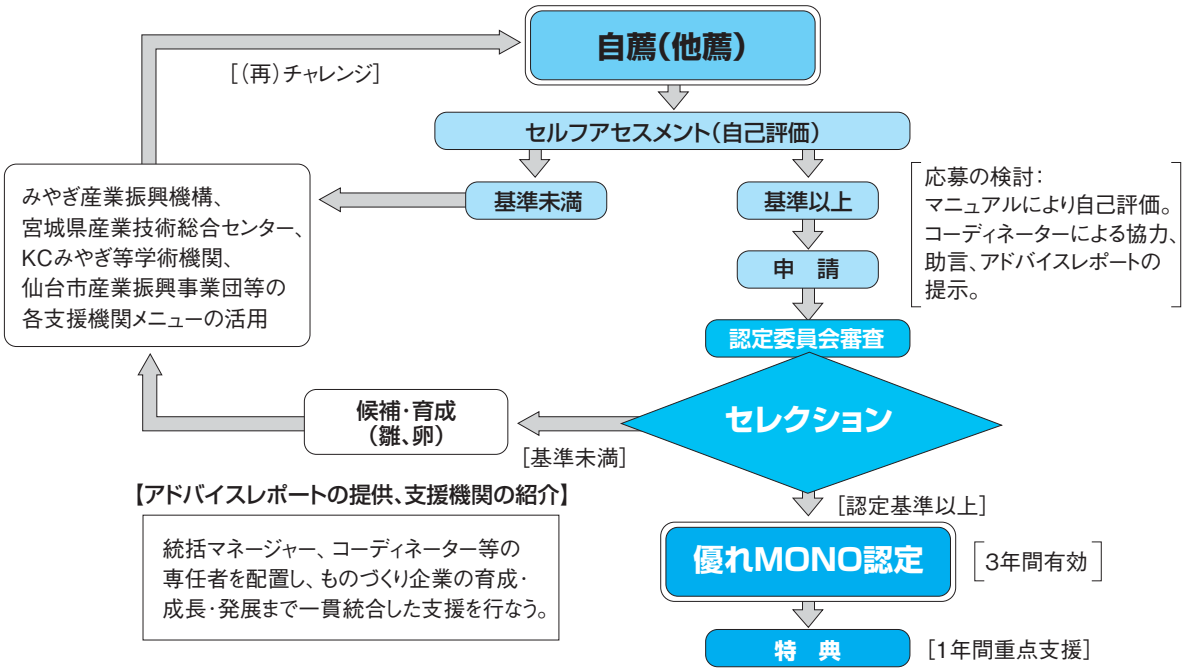
※実行委員会メンバー

宮城県商工会議所連合会、宮城県商工会連合会、宮城県中小企業団体中央会、仙台商工会議所、東北電力株式会社宮城支店、株式会社テクノプラザみやぎ、株式会社七十七銀行、公益財団法人みやぎ産業振興機構、財団法人みやぎ産業交流センター、財団法人青葉工学振興会、社団法人宮城県物産振興協会、社団法人みやぎ工業会、宮城県市長会、宮城県町村会、仙台市、宮城県

(2) 特徴

・品質絶対、独自技術、安全安心、環境経営など10項目の評価軸と5段階の基準の提供。
・申請に当たり事前のセルフアセスメントの実施と、専任コーディネータによる評価支援。
・セレクション（認定）時の売れるものにするための特典付与と、認定に至らなかった時の詳細なアドバイスレポートの提供。

(3) 認定フロー



(4) 展示会への出展支援状況

■産業交流展2011　（2011.10.26～28、東京ビックサイト）への出展風景

産業交流展オープニングセレモニー

出展ブース

認定製品のプレゼンテーション

認定製品、募集要項等はホームページをご参照ください。

URL ： http://www1.odn.ne.jp/m-suguremono/　みやぎ優れMONO　検索

みやぎ優れMONOシンボルマークについて

伊達政宗の陣羽織を想像させる色（水玉）を用いて、国内外の方に贈る「献上物」をイメージしています。連なるカラフルな玉は「みやぎ優れMONO」製品の発展を意味します。

○社団法人みやぎ工業会
〒981-3206　宮城県仙台市泉区明通2丁目2番地
宮城県産業技術総合センター内
TEL.022-777-9891　FAX.022-772-0528
http://www2.odn.ne.jp/m-indus/

観光地域・鳴子温泉郷の取り組み

公益財団法人　七十七ビジネス振興財団

大崎市は平成18年3月31日に1市6町（古川市、松山町、三本木町、鹿島台町、岩出山町、鳴子町、田尻町）が合併して誕生しました。その大崎市の北西部に位置する鳴子温泉郷は、豊富な泉質と湯量をもつ温泉と、新緑や紅葉のきれいな鳴子峡をはじめとする雄大な自然、鳴子こけし等の伝統的工芸品、源義経や松尾芭蕉にちなんだ歴史的名所・旧跡等、多くの地域資源をもつ東北有数の観光地です。東日本大震災で宮城県経済が大きな被害を被った中、地域資源を有効に活用した観光業の取り組みが重要となっております。今回は、豊富な地域資源をもつ鳴子温泉郷の現況と観光地としての魅力、今後の取り組みについて取材しました。

1．東日本大震災による被害状況について

東日本大震災の発生に伴う停電により、お湯を汲み上げるポンプが停止したため、停電が解消されるまでの1週間は一部の宿泊施設が営業停止となりましたが、幸いにも大きな被害はありませんでした。そのため、鳴子温泉郷の宿泊施設は南三陸町、女川町、気仙沼市、東松島市、石巻市等の沿岸地域の方々の避難所として活用され、ピークで1,000人を超える避難者を受け入れる等、地域住民が一体となって震災後の復旧活動に取り組んでまいりました。

現在、宿泊施設は通常通り営業を開始しており、観光客を受け入れる体制は整備されていますが、震災後9か月以上経った現在も、地震や原発による放射能汚染の風評被害の影響は大きく、海外を含め観光客は減少しており、風評被害への対策が喫緊の課題となっております。（大崎市と鳴子温泉郷の東日本大震災の被害状況は、図1のとおりです。）

図1．大崎市と鳴子温泉郷の東日本大震災の被害状況（平成23年12月1日現在）

被害内容		大崎市	
			鳴子温泉郷
人的被害	死亡者（市内・市外）	16人	0人
	重症	74人	2人
	軽傷	147人	2人
	行方不明	0人	0人
住家被害	全壊	563棟	1棟
	大規模半壊	224棟	3棟
	半壊	1,998棟	11棟
	一部損壊	8,543棟	129棟
非住家被害	公共施設	71棟	0棟
	その他（全壊）	257棟	0棟

資料：大崎市

2．鳴子温泉郷の観光地としての特徴

図２のとおり、鳴子温泉郷の観光客入込数は、近年 2,200 千人前後で推移し、平成 21 年度は 2,259 千人、平成 22 年度速報値は 2,140 千人（前年度比 5.3％減少）となっています。季節別にみていくと、例年、秋の観光客入込数が 800 千人前後で推移し、年間入込数の約４割が紅葉シーズンにあわせて、鳴子温泉郷に足を運ぶことがうかがえます。

宿泊観光客入込数については近年減少傾向にあり、平成 21 年度は 776 千人、平成 22 年度速報値は 735 千人（前年度比 5.3％減少）となっています。なお、鳴子温泉郷は宮城県内からの宿泊客数が全体の約７割を占め、南三陸町等の沿岸部から湯治を目的に毎年宿泊客が訪れる等、地元宮城県からの宿泊客が多いのが特徴です。また、県外からの宿泊客数全体の５割以上を関東からの首都圏の宿泊客が占めております。これは、従来から温泉ツアー等の企画を積極的に首都圏へＰＲしてきた結果であると思われます。

図２．鳴子温泉郷の観光客入込数と宿泊観光客入込数の推移

単位：千人

			平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
観光客入込数			2,233	2,194	2,156	2,243	2,259
季節別内訳	春（4，5，6月）		481	483	470	471	501
	夏（7，8月）		383	372	354	344	372
	秋（9，10，11月）		792	787	817	883	843
	冬（12，1，2，3月）		577	552	515	545	544
宿泊観光客入込数			834	802	801	796	776
居住地域別内訳	宮城県内		536	562	557	560	548
	宮城県外		285	233	236	228	220
		北海道	4	1	3	6	5
		東北	74	69	70	64	63
		関東	140	132	130	122	118
		中部	34	15	14	12	11
		近畿	17	10	10	9	9
		その他	16	7	9	14	14
	不明		13	7	8	8	8

資料：宮城県

3．鳴子温泉郷の魅力

（1）豊富な泉質と湯量をもつ東日本を代表する温泉郷

鳴子温泉郷は、鳴子温泉・東鳴子温泉・川渡温泉・中山平温泉・鬼首温泉の５つの特色ある温泉地の総称で、開湯 1,100 年以上の歴史を誇る一大温泉郷です。源泉数は 400 本以上におよび、多くの宿が敷地内に自家源泉を所有しているほか、日本に湧く天然温泉の泉質 11 種類のうち、9 種類の泉質（単純温泉、重炭酸土類泉、重曹泉、食塩泉、芒硝泉・石膏泉、明ばん泉、緑ばん泉、硫黄泉・硫化水素泉、酸性泉）が鳴子温泉郷で湧き出ている等、泉質・湯量ともに東日本を代表する温泉地です。鳴子温泉郷の泉質は神経痛・筋肉痛・関節痛・慢性皮膚病・動脈硬化・高血圧症等、様々な効能があるため、古くから湯治場として栄えてきましたが、近年は美肌効果のある湯としても人気が高まっています。

平成 19 年 6 月発行の月刊誌「旅の手帖 7 月号」の『「青春 18 きっぷ」で行く温泉番付』において鳴子温泉郷は、西の横綱「別府八湯」とならび、東の横綱に認定されており、温泉地として全国的に高い評価を受けています。豊富な泉質をもつ鳴子温泉郷では、源泉 100％の混じりけのない、かけ流しの湯を贅沢に堪能でき、さらに各温泉地内を湯めぐりすることで、様々な特色のある温泉を満喫することができます。

平成19年6月発行の月刊誌「旅の手帖7月号」の『「青春18きっぷ」で行く温泉番付』

【鳴子温泉郷の５つの温泉地の特徴】

鳴子温泉	古くから福島県の飯坂温泉・宮城県の秋保温泉とともに奥州三名湯に数えられている鳴子温泉は、鳴子温泉郷の中心部に位置し、日本有数の源泉数をもつ温泉地です。近代的な宿泊施設や食事処、土産物店が並ぶ温泉街の街並みは、温泉情緒を十分に味わうことができます。現在、鳴子温泉には22軒の旅館と2つの共同浴場、5つの足湯、1つの手湯があり、様々な泉質の温泉を心行くまで楽しむことができます。
東鳴子温泉	古くから湯治場として親しまれ、江戸時代には仙台藩主伊達家専用の「御殿湯」も設けられた由緒ある温泉地です。現在、東鳴子温泉には12軒の旅館があり、昔ながらの湯治場としての風情を味わいながら、様々な泉質のお湯を楽しむことができます。近年、東鳴子温泉では「現代の湯治づくり」をテーマに農業体験と湯治を融合させた試みや様々なイベントを展開しています。
川渡（かわたび）温泉	鳴子温泉郷の玄関口に位置する川渡温泉は、鳴子温泉郷の中でも最も早く開湯された温泉地で、泉質の良さから「かっけ川渡」と謳われた湯治の里です。伝統の木造りの宿が建つ街並みは、昔ながらの雰囲気を味わうことができます。現在、川渡温泉には11軒の旅館と1つの共同浴場があり、それぞれの温泉宿で様々な泉質のお湯を楽しむことができます。
中山平温泉	鳴子峡近くの静かな山間に位置する中山平温泉は、鳴子温泉郷の中で最も湯量が豊富な温泉地です。現在、中山平温泉には10軒の旅館と1つの共同浴場があり、とろりとした肌触りの硫黄泉は美肌の湯として人気を集めています。
鬼首（おにこうべ）温泉	地獄谷遊歩道をはじめとした秘湯ムードの漂う温泉地です。雄大な自然に囲まれた鬼首温泉は現在、7軒の旅館と1つの共同浴場があり、四季を通じてアウトドアスポーツが楽しめるリゾートエリアとして高い人気を誇っています。

鳴子温泉

鳴子温泉の手湯

（2）一年を通じて満喫できる雄大な自然

雄大な自然に囲まれた鳴子温泉郷は、春はさわやかな新緑、夏は避暑、秋には一面真っ赤に燃えた紅葉、冬はスキー・スノーボード等のレジャー等、一年を通じて楽しむことができる観光地です。雄大な自然を散策して大自然を満喫した後や、スポーツ等のレジャーを楽しんだ後に、ゆっくり温泉に浸かって疲れをとる等、観光客に元気と癒しを与える場所として非常に人気があります。鳴子温泉郷の自然を体感できるスポットとして、以下のような場所があります。

【鳴子温泉郷の主な観光スポット】

鳴子峡	高さ100ｍの断崖絶壁が2.5㎞以上に渡って続く大渓谷で、遊歩道（現在通行止め）や見晴らし台からは、春は新緑、夏は清流、秋は紅葉と四季折々の美しい渓谷美を満喫することができます。特に10月中旬から11月上旬が紅葉の見頃であり、例年多くの観光客を魅了しています。
潟沼（かたぬま）	鳴子火山が爆発してできた日本有数の酸性度をもつカルデラ湖で、天候や時間、季節によって湖面の色がエメラルドグリーン等に変化する神秘的な湖として観光客を魅了し、地元住民からも人気の高いスポットです。貸ボートや遊歩道もあり、ゆっくりと散策を楽しむことができます。
鳴子ダム	昭和27年に着工され、昭和32年10月、日本で初めて、日本人のみの手により造られたアーチ式コンクリートダムとして完成しました。例年、ゴールデンウィークの頃にはダムの放水とこいのぼりの美しい景色を眺めることができます。また、荒雄湖と周辺の山々の景色、特に山々が紅葉に染まった中で行われるダム放流は絶景です。
地獄谷遊歩道	沢づたいに整備された約600ｍの遊歩道から、大小様々な間欠泉を見ることができます。湯気があがり温泉が湧き出る様子は、大地の息吹を感じることができます。
間欠泉	「弁天」の名の間欠泉が、約10分間隔で100度を超える熱湯が15メートル以上の高さで噴出する様子は、大地の息吹を感じることができます。
リゾートパーク オニコウベ	広大な自然の中、冬はスキー、夏はゴルフ等の様々なアウトドアスポーツと温泉の両方が楽しめるレジャースポットです。かぶと虫ふれあいの森（7月中旬から8月中旬）、鬼そば手打ち体験（11月上旬から）等の自然体験メニューもそろえています。

鳴子峡

潟沼

（3）鳴子温泉郷の歴史と伝統工芸

鳴子温泉郷は、源義経や松尾芭蕉にちなんだ名所・旧跡や古道が数多く残されており、当時の文化や歴史を感じることができます。現在、松尾芭蕉が歩いたとされる、「尿前（しとまえ）の関から山形県堺田」までの約8.9kmは、奥の細道として遊歩道を整備し、外国人観光客向けの看板を設置する等、歴史と自然が味わえる散策スポットとして多くの観光客より親しまれています。

また鳴子の伝統的工芸品である「鳴子こけし」「鳴子漆器」は、現在も多くの職人によって、伝統と技術が守られ、次世代へ引継がれています。

図3. 鳴子温泉郷主要観光地点別観光客入込数の推移

単位：千人

	平成19年度観光客入込数		平成20年度観光客入込数		平成21年度観光客入込数	
		うち宿泊客数		うち宿泊客数		うち宿泊客数
鳴子温泉	1,116	488	1,103	488	1,163	479
東鳴子温泉	164	90	159	85	157	85
川渡温泉	72	34	73	33	78	39
中山平温泉	223	114	211	103	225	103
鬼首温泉	96	14	101	18	99	18
鳴子峡	168	0	253	0	230	0
潟沼	22	0	21	0	21	0
鳴子ダム	23	1	27	1	27	1
リゾートパークオニコウベ	128	27	157	38	150	37
その他	144	33	138	30	109	14
合計	2,156	801	2,243	796	2,259	776

資料：宮城県

4．鳴子温泉郷の地域資源を活かした取り組み

観光産業は、飲食業や宿泊業、小売業、運輸業、その他様々な産業が互いに関連する総合産業であり、あらゆる産業の生産面、雇用面等に与える経済波及効果は非常に大きく、地域経済の発展には欠かすことができません。

鳴子温泉郷をはじめ、大崎市では、東日本大震災発生以降の自粛の風潮や風評被害等により減少した観光客を取り戻すために、鳴子温泉郷の豊富な地域資源を有効活用し、地域活性化を図る様々な施策が行われています。

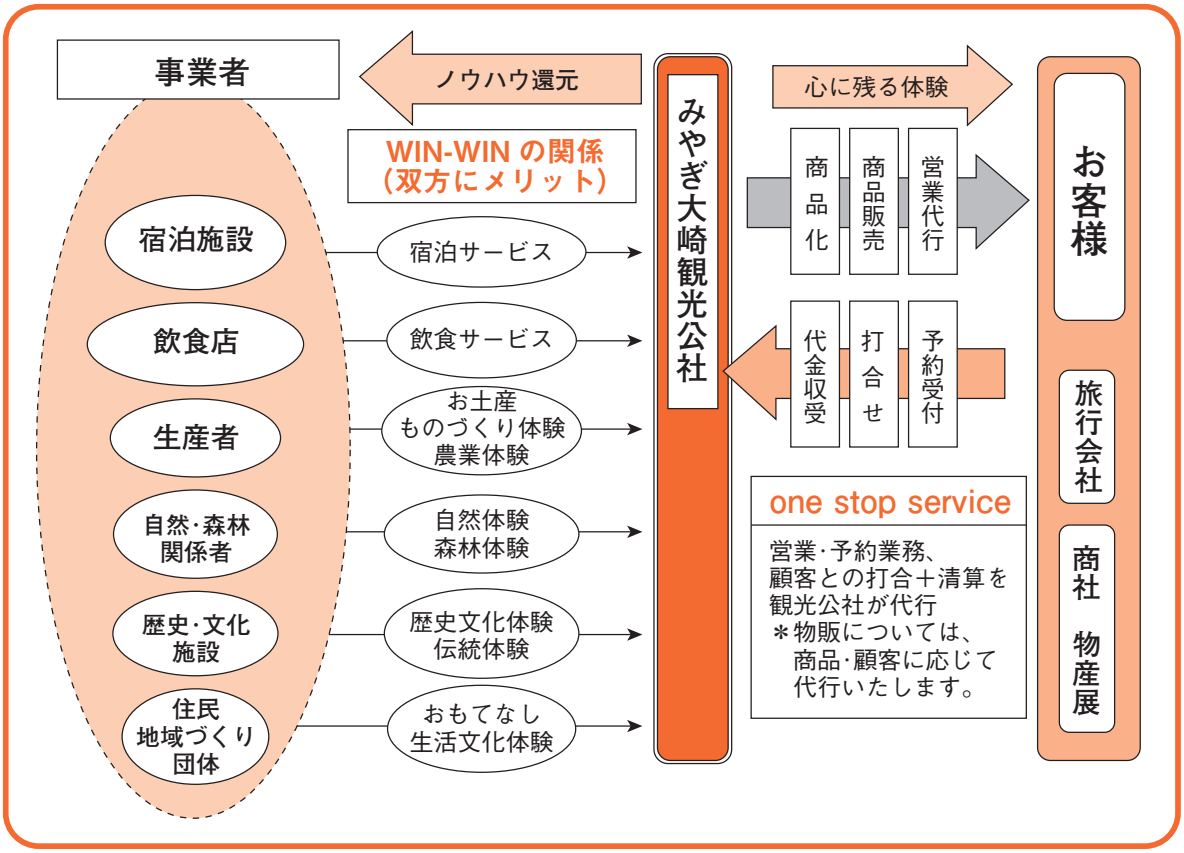
（1）一般社団法人みやぎ大崎観光公社の設立

平成 23 年 12 月に、大崎市において、一般社団法人みやぎ大崎観光公社（以下、観光公社）が設立されました。この観光公社は、鳴子温泉郷をはじめ、大崎市が持つ、人・物・自然・文化等の地域資源と様々な産業を有効に活用・結びつけ、着地型・滞在型観光を目指すことで、魅力ある観光地の創造と地域活性化を図ることを目的としています。

一般社団法人みやぎ大崎観光公社の主な事業内容

① 観光商品のマーケティング・企画・造成・販売
② 物産品等の販売
③ 旅行業法に基づく旅行業（旅行業第 2 種）
④ 観光関連事業の受託業務
⑤ 地域資源の調査および開発
⑥ 地域情報の収集および発信

一般社団法人みやぎ大崎観光公社の仕組み



観光公社は、鳴子温泉郷の恵まれた自然環境を活用したエコツーリズム、田植えや稲刈り等の農業体験ができるグリーンツーリズム、温泉や自然の中でストレス解消や健康増進を図るヘルスツーリズム等の、付加価値の高い観光商品を開発し、心に残る体験を観光客に提供します。また観光公社の会員には、サービス方法や販促方法、観光の充実化を図るための方法等を還元していきます。観光公社は、観光地の新しい魅力を創造する組織として今後の活動が大きく期待されます。

（2）広域連携による観光の推進

鳴子温泉郷と世界遺産に登録された平泉との広域観光ルートを確立し、観光客の誘致に努めています。平成23年10月1日から平成23年11月20日の期間において、鳴子温泉郷から平泉までを巡る定期観光バス「鳴子温泉・平泉号」が運行され、多くの観光客を集めました。

鳴子温泉郷の魅力を引き出すためには、他の観光地域と積極的に連携して付加価値を向上させる取り組みが必要であり、今後は平泉に加え、東北地方や宮城県内の様々な観光地と広域観光ルートを確立することが求められています。

（3）風評被害の払拭

各種イベントやメディア、インターネット等を活用し、「宮城　大崎　元気です！」のキャッチコピーで風評被害払拭のための情報発信を行っています。特に、放射能の風評被害による観光客の減少に歯止めをかけるため、大崎市ではホームページにて大崎市内の放射線測定結果情報を毎日更新しています。（大崎市内の放射線測量結果は下記リンク先にてご覧いただけます。）

http://www.city.osaki.miyagi.jp/20110311jisin/201107_jisin01.html

（4）イベントの開催

鳴子温泉郷では、一年を通じて様々な企画のイベントを開催しており、鳴子温泉郷の自然や文化に触れることができます。主なイベントは以下の通りです。

【鳴子温泉郷の主なイベント】

4月下旬	川渡温泉江合川河川敷の菜の花畑
9月　第1土曜・日曜日	全国こけしまつり
10月下旬	鳴子峡の紅葉
11月	鳴子音楽祭（湯の街ストリートジャズ in ＳＰＡ鳴子）
12月	上野々スキー場、オニコウベスキー場開き
2月	スノーランタンフェスタ in 中山平

川渡温泉江合川河川敷の菜の花畑

スノーランタンフェスタ in 中山平

鳴子こけし

鳴子温泉街の夕暮れ

5．最後に

鳴子温泉郷の温泉は、豊富な泉質と湯量、多くの効能をもつ東日本を代表する温泉です。鳴子温泉郷のように、様々な泉質の温泉を湯めぐりする贅沢は、他の温泉ではなかなかできません。今回の取材を通し、鳴子温泉郷のすばらしさ、温泉の泉質の良さを改めて実感いたしました。鳴子温泉郷に宿泊するほとんどが宮城県内の宿泊客で占められていますが、今後は鳴子温泉郷のすばらしさを、もっと全国に情報発信していく取り組みが必要であると思われます。

現在、鳴子温泉郷の温泉・自然・伝統文化等の地域資源を有効活用した着地型・滞在型観光の取り組みを行い、東日本を代表する温泉地としての魅力に加え、観光地としての新たな魅力を創造して行こうとしています。地震や風評被害により鳴子温泉郷の観光客は減少しておりますが、この取り組みが成功し、鳴子温泉郷の魅力が全国に発信されることを心より期待いたします。

○大崎市役所（観光交流課）
〒989-6188 宮城県大崎市古川七日町1番1号
TEL. 0229-23-7097（ダイヤルイン）
http://www.city.osaki.miyagi.jp/

○鳴子温泉郷観光協会
〒989-6823 宮城県大崎市鳴子温泉字湯元2-1
TEL.0229-82-2102
http://www.naruko.gr.jp/

（写真提供：大崎市）

趣味は健康？

東京エレクトロン宮城株式会社　取締役会長　竹渕総樹

趣味というと、何かこだわりをもって続けていること、ストイックなまでに努力をしているようなことと勝手に思っている。会話の中で聞かれれば、話の妻みたいなものだから、適当に「ゴルフ、読書」などと答えていることが多い。しかし、文章になると困る。自分の思っている趣味観でいうと、ゴルフも読書もただ漫然と楽しんでいるだけで、残念だがこだわり度？を書けるだけの中身がない。では、堂々と無趣味と言えばよさそうなものだが、何かつまらない人間と思われるような気がして、そう宣言する勇気もない。

悩んだ結果、趣味とはいえないかもしれないが、こだわって続けていることがあるのでそれを紹介したい。

今から15年ほど前になるが、本社で営業部長をやっていたときに体調を崩したことがある。ちょうどグローバル展開をやっていた頃で、世界中を飛び回っていた。慢性的な時差ボケと不規則生活で体重も増加し、週末はカウチポテト状態。いつ倒れてもおかしくないような生活が続いていた。

1997年の初冬、お客様先とのゴルフの帰りに異様な胸のつかえを感じた。気がつくと脈拍が不規則で、心臓がからまわりしているような感じだった。翌日からの検査で下った診断は、心室性期外収縮という不整脈だった。原因は過労とストレスによる自律神経の失調らしく、精神安定剤が処方された。固まった体をほぐす為に、鍼灸に通ったりもしたが一向に良くならず、ずいぶん落ち込んだ。

そんな中、以前読んだ本に、「西野流呼吸法」なるものがあったことを思い出した。多くの著名人も通っている呼吸法と気功の教室の紹介で、体調を整え、健康でいつまでも若々しい体を作る方法を実践しているとある。

少々胡散臭さを感じつつも入会し、まずは教えられるままにトレーニングをした。ひと月くらいたって気がつくと、不整脈の頻度はグンと少なくなり、体も内側からリフレッシュされてくるのがわかった。それからは毎朝20分、家でも出張先でもトレーニングを続け、週末には教室に通うという生活を十数年続けてきた。昨年仙台に来てからは、残念ながら教室のほうは休んでいるが、毎朝のトレーニングは続けている。

呼吸法を始めて心身が充実してくると、無性に体を動かしたくなったため歩くことも始めた。季節を肌で感じながら何もない週末には２時間くらい歩く。もちろんゴルフでも、カートには基本乗らない。

仙台は歩くのが楽しくなる街だ。名所、旧跡、横丁にアーケード。２時間もあればほとんどカバーできる。榴岡公園、広瀬川沿いの道は最高のウォーキングコースになっている。

単身赴任ではあるが、この街ではとても健康に暮らせるような気がする。